

1. 研究課題名:「角膜再生医療の新規基盤技術開発を目指した角膜幹細胞の細胞動態の解明」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:京都府立医科大学 眼科学教室 教授 木下 茂

2-2. スイス側研究代表者:スイス連邦工科大学 ローザンヌ校 幹細胞ダイナミクス研究室  
教授 Yann Barrandon

3. 総合評価: ( A )

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

幹細胞培養と角膜再生医療の専門グループが研究交流を行うことにより、より良い角膜再生を目指す研究組織の構成は評価できる。角膜上皮幹細胞の培養法で新しい知見が得られており、培養幹細胞の恒常性維持に必要な条件を決定したり、再生角膜上皮を *in vitro* で再現することに成功している。その結果、幹細胞と内皮細胞間の関連分子に関する解析をさらに押し進めることが出来ている。但し、スイス側の研究成果に関する報告内容が乏しく、日本—スイス研究交流における相互作用の成果が十分に示されていない様に思われる。また、両国間で得られた知見や理解を深めるだけでなく、共著論文の形での発表も求めたい。

(2)交流成果の評価について

日本—スイス双方の研究チームが技術的に相互補完し合う良い研究体制をとっている。シンポジウムや日本—スイス相互の短期滞在を積極的に行なっており、本研究交流を契機とした発展的な展開が期待される。但し、日本側は、スイス側から優れた幅広い培養技術に関する知識・技術の供与を受けて有意義であったが、スイス側へは、臨床・医療の一般的な知識等の供与に留まっている様にも思われる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本研究交流の期間内に研究成果が共著論文として発表されていないことは残念であるが、その投稿準備状態まで達していることから、今後の進展が期待される。